

その他の環境等を小起因物とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小)	事故の型	労働者規模
2021	1	4 ～ 6	新聞配達を行っていた際に徒歩によりガソリンスタンド構内を通行していたところ、構内の端の積雪した箇所から隣接する用水路に転落した。その後、用水路内を下流に向かって徒歩により150m程度移動し、壁面が低くなった地点から脱出を試みるも脱出できず、次第に意識を消失して河床にうつ伏せに倒れ、最終的には転落地点から直線距離にして200m程度離れた箇所で溺死した状態で発見されたもの。	80205	1	1～9
2021	2	10 ～ 12	ゴルフ練習場建屋の屋根の除雪作業において、除雪用スコップを持ったまま、同建屋の西側にあるコンベヤ室の北側を西から東方向へ移動していたところ、同コンベヤ室の屋根に積もっていた高さ約2mの雪が滑り落ち、それに巻き込まれる形で、被災者が高さ約4.1mの屋根から墜落した。	30309	1	1～9
2021	2	8 ～ 10	被災者は、建設工事現場での作業に従事するため、宿泊を伴う出張中、休工となった日に食事の購入のために滞在していたホテルを外出したところ、近隣の百貨店敷地内の雪道で転倒したとするもの。被災者は、頸髄損傷で入院し、療養していたが、敗血症性ショックで入院先の病院で死亡が確認された。	30107	2	100 ～ 299
2021	2	8 ～ 10	事業場のパトロール隊に所属する被災者は、スキー場のチャレンジコースをパトロールのためスキーで滑走中、顔面から転倒して頸椎を損傷し心肺停止の状態で搬送されたが、数日後に死亡したもの。	140309	2	10～ 29
			休憩のためフォワーダの荷台に乗った作業員2名がフォワーダが停止し			

2021	2	10 ～ 12	た後、進行方向右側で高さ約1 mに積もった雪の上に降車。その後、被災者が誤って雪の上から転落、あるいは作業道に降りようとした際に転落するまたは降りてから転倒した。その際運転手から死角となるクローラの前に転落等したため、運転手が気づくことなくフォワーダを前進させ、被災者が轢かれたものと推測される。	60201	1	1～9
2021	3	6 ～ 8	トレーニング施設の南馬場において、被災者が競走馬に騎乗し、レース出走を控えた競走馬を併走させる調教（追い切り）をしていたところ、その競走馬が左前脚を折って転倒し、その弾みで被災者が地面に投げ出され、全身を打って意識不明の重体となった。その後、搬送先の病院で死亡した。	70101	1	10～ 29
2021	5	8 ～ 10	競走馬育成施設において、坂路で競走馬を調教中、暴れて逆走してきた馬から被災者が騎乗していた馬が激突することを防止するために右に避けたところ、被災者が避けきれず落馬している最中に、暴れて逆走してきた馬が被災者に激突した。	70101	6	30～ 49
2021	5	12 ～ 14	自然交配させるため、種牛1頭と母牛9頭を牛舎の同じ柵内（4.4 m × 1.6 mの鉄柵）に入れていた。約20メートル離れた場所で作業をしていた同僚が種牛の近くで仰向きになって倒れている被災者を発見した。	70101	6	10～ 29
2021	6	10 ～ 12	被災者は、他作業員6名（役員2名含む）と、民有林において、当日までに伐木した木の枝払をチェーンソーで行っていたところ、作業区域に接していた立木が根むくれを起こし倒れ、当該木に激突された。災害当時は、強風が吹いていた（気象庁の記録によると、災害発生時刻の現場周辺の平均風速は、8.4 m/s、瞬間最大風速は、15.9 m/s）。なお、役員1名も近くで作業しており、同様に被災して死亡した。	30199	6	10～ 29
2021	8	14 ～	被災者一人で事業場の管理する水田の付近で草刈りを行っていたところ、蜂に刺されて救急搬送された。その後、病院にて治療が行われたものの、数日後にアナフィラキシーショックに起因する低酸素性脳症にて	60101	90	1～9

		16	死亡した。			
2021	9	14 ～ 16	被災者は同僚二人とともに民家の納屋の解体作業中、粉塵を抑えるために散水をしていたところ、現場内に出現したスズメバチに左手の甲を刺された。被災者は現場で休んでいたが症状が悪化し、アナフィラキシーショックによる意識障害・血圧低下・低酸素脳症と診断された。その後入院先で死亡した。	30202	90	1～9
2021	10	10 ～ 12	山間地にある送電線鉄塔の工事において、作業準備のため徒歩で用具を運搬中、スズメバチに襲われた。被災者は上半身を多数刺されたため、救急搬送され治療を行っていたが翌日死亡した。被災者の前後を歩いていた2名もスズメバチに刺されたが、軽傷であった。	30301	90	100 ～ 299
2021	10	10 ～ 12	集荷のため、荷積場所付近で時間調整のためトラック内で待機していた時に蜂に刺されたもの。荷積後、コンビニエンスストアの駐車場入口付近で車内で意識を失っているところを発見され、5日後に死亡したものの。	40301	90	30～ 49
2020	1	16 ～ 18	被災者が災害発生場所の宿直室内で意識不明の状態で見つかった。被災者は災害発生場所で警備業に従事していたところ、状況から、前日の巡回中に転倒し、地面に後頭部を打ちつけ、右側頭葉脳挫傷等の傷害を負ったものと思われる。その後、被災者の意識が戻らず、被災者は後日死亡するに至った。	150101	2	100 ～ 299
2020	1	12 ～ 14	施設の管理業務を行っていた被災者は、昼休憩の時間となり自宅に帰るため、当該施設の駐車場を歩いているときに地面の圧雪アイスバーンで滑って転倒し後頭部を打撲した。その後、自宅に戻り昼食をとってから業務へ復帰したが、業務交代時に同僚がトイレで倒れていることを発見して病院へ搬送後、別の病院へ転院となり入院したが、後日頭蓋内損傷で死亡した。	150101	2	50～ 99
		18	被災者は給油所内で所長と2名で作業を行っていた。所長がゴミ箱の片づけを行っているところに、被災者が作業の指示を仰ぐため後方から所			

2020	2	～	長に近付いた。所長が指示のため右手を後方に振り上げたところ、右手	80204	6	1～9
	20		の甲が被災者の顎に当たった。被災者は脳震盪のような状態になり、意識を失った状態で後方に倒れ後頭部をアスファルトの地面に激突した。			
2020	6	～	被災者が既存の法面で下刈り作業中に、左手甲を蜂に刺された。被災者は刺された後、法面天端まで移動して様子を見ていたが、ショック状態	30199	90	1～9
	14		になり意識を喪失。被災者は、その後病院に搬送されたが、同日中に死亡が確認された。なお、被災者は、蜂に刺された時、1か月前にも刺されていたと同僚に話していたもの。			
2020	7	10～12	イベントの翌日、構台上に設置したイベント看板（支柱高さ3m、看板高さ0.9m×幅4m、支柱込み重量60kg）を作業員2名で撤去中に、突風にあおられ、看板と一緒に構台の手すり（高さ約102cm）を超え、構台下の深礎杭（高さ約60m）の底に墜落したもの。	30105	1	30～49
2020	8	16～18	畑で苗植え作業を行っていたところ、落雷があったもの。	60101	13	1～9
2020	8	16～18	畑で苗植え作業を行っていたところ、落雷があったもの。	60101	13	1～9
2020	10	12～14	のり面の草刈り作業中、ハチに右上腕部を刺されたもの。	30199	90	1～9
2020	11	4～6	被災者は馬場で競走馬の調教を終え、騎乗したまま調教後のクールダウンのために厩舎に向かっていたところ、突然、競走馬が暴走し、直角に曲がった馬道を曲がり切れず、法肩に設置された植え込み及びフェンスに衝突し、被災者が馬上より投げ出されて、当該フェンスを越えて、土の法面さらにその先のコンクリートブロックと合わせて高低差約10メートルを転落し、死亡したもの。	70101	1	1～9
	6		スキー場のリフトの登頂部で看板を立てる作業をしていたところ、最大			

2019	2	8	～	斜度35度のコース斜面を約240m滑落して木製の看板に激突し死亡した。	40101	1	10～29
2019	4	10	～	被災者は一人で牛舎内で柵の補修を担当していた。事業主が牛舎を見ると、牛舎内に倒れた被災者が牡牛に頭で突かれているのを発見。	70101	6	1～9
2019	7	10	～	市から受託した集落道路維持業務において、労働者8名で草刈り及び側溝清掃を行っていたところ、午前頃に左腕を蜂（種類不明）に刺された。その後、塗り薬を塗って作業を続けていたが、右手示指をアシナガバチに刺され、塗り薬を塗ったが、数分後に容体が急変し、死亡した（アナフィラキシーショック）。	60201	90	10～29
2019	8	8	～	防災点検における道路防災点検のため道路脇斜面等の点検・調査を実施している際に被災者が顔の頬付近を蜂に刺された。最寄りの病院へ搬送したが、被災当日の正午頃病院内において様態が急変し心肺停止状態となったことから、救命救急センター併設病院に搬送するも、その後、様態は回復することなく死亡したもの。	170209	12	10～29
2019	8	10	～	動物飼育舎内の檻の外側の管理通路上で被災者が意識不明で倒れているのが発見された。	120109	6	100～299
2019	9	4	～	当該事業場において、船舶等に電気供給する設備の運転管理等の業務を請け負っている。被災者は1名で設備点検終了後に、設備異常等に備え建屋内の設備運転管理室に併設された当直部屋で通常は仮眠中の時間帯に、その建屋外で倒れている状態で発見された。発見時は建屋2階の設備搬入用の扉が開放されており、その張出し床の直下で倒れていた。	170209	1	1～9
2018	1	14	～	事務所から得意先へ向かって車で走行中、トンネル付近で対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと衝突した。	30203	17	10～29
				被災者は、明け方まで夜勤を行い敷地内駐車場に止めた自家用車へ移動			

2018	1	6 ～ 7	した。駐車場及び止めてあった車が積雪で覆われており、被災者は、駐車場が除雪され、自家用車を出せるようになるまでエンジンをかけた車内で待っていた。12日午後、駐車場に止まっている車の中でぐったりしている被災者を発見しその後死亡が確認された。	11502	12	1000 ～ 9999
2018	1	8 ～ 9	グリーン付近（西1番コース）カート道路の除雪作業中、カート道路を歩行している時に、足を滑らせ後方に転倒した。転倒した場所は除雪の済んだ傾斜のあるカート道路上で転倒時路面は凍結していた。頸髄損傷の傷病名にて入院加療中であったが、合併症を併発し死亡したもの。	140301	2	10～ 29
2018	1	8 ～ 9	病院の施設管理業務に従事していた被災者が、事務所から屋外のゴミ庫へゴミを持って歩いて行った直後、ゴミ庫の前の氷が張った地面の上で仰向けに倒れ、いびきをしている状態で発見された。被災者は後頭部を地面に打ち付けて、外傷性くも膜下出血をおこし、その後容態が悪化して死亡した。被災者は従来より右膝を痛めておりうまく歩行できず転倒しやすかった。	150101	2	10～ 29
2018	2	6 ～ 7	被災者は通勤のため、事業場敷地内の駐車場から、工場に向け歩いていたところ、氷で足を滑らせ転倒し、頭部を地面に強打した。被災者は外傷性くも膜下出血により入院し、治療を行っていたものの後日死亡したもの。	11409	2	300 ～
2018	3	12 ～ 13	木造家屋新築工事において被災者が1階でクロス貼り作業中、屋外では当該工事現場の近隣住民が生活ごみが風で飛散し、本件工事現場内にも飛んでくるおそれがあったため、被災者は屋外に出て生活ごみを拾い集めようとしていたところ、本件工事現場から西に2軒隣で施工中であった別の木造家屋新築工事現場内に敷かれてあった泥よけ用の木製板が風で飛び、被災者の頭部に当たった。	30202	4	1～9
2018	3	12 ～	河川の災害復旧工事において、河川内の一部を仮締切し左岸側の落差工（水叩部）のコンクリート（捨てコン）の打設中、突然、上流側から大量の雪氷が一気に押し流されて来たため、すぐに被災者含む7人は逃げたが、逃げ遅れた被災者（現場代理人）は生き埋めとなった。約1時間	30107	5	100 ～

		13	後に救出されたが、搬送先の病院で翌日死亡したもの。なお、災害発生時は、雨が降っており気温もプラスであった。			299
2018	3	12 ～ 13	現場代理人たる被災者が、水路トンネル出口から約80メートル先の湧水源に続く通路の除雪を行っていたところ、上部にあった積雪が崩れ、雪とともにおよそ14メートル下の沢に転落し、窒息死したもの。	30102	5	50～ 99
2018	4	2 ～ 3	原動機付自転車（50cc）で新聞配達中、路上に飛び出して来た、鹿に激突され、転倒し、頭部を強打した病院に搬送され、意識不明の重体であったが、後日死亡。	80205	17	10～ 29
2018	9	12 ～ 13	事業場内の建物の間（汚泥再生処理棟とごみ燃料化施設）の通路付近に、仰向けに倒れている被災者が発見され、直ぐに救急搬送されるも、後日死亡したもの。被災者の発見直前（約5分前）は、ごみ処理施設の計量器付近の割れたガラスの措置のため、同僚らが集まったものの、台風による強風が治まってから行うことを決め、被災者は自身の作業場である計量室に戻る途中であった。	150103	2	10～ 29
2018	9	12 ～ 13	被災者が路上に落下した屋根（金属製折板）の撤去作業中に台風の風により後ろ向きに転倒し、後頭部を打って被災したもの。	80209	2	10～ 29
2018	9	12 ～ 13	刈払機を用いて草刈作業をしていたところ、後頸部を蜂に刺されアナフィラキシーショックを起こし、後日死亡したもの。	130201	90	1～9
2018	10	16 ～ 17	被災者が1人で虎の屋外展示場の清掃のため、屋外展示場に入場して虎に頸部等を咬まれ死亡した。通常は、虎を屋外展示場から屋内飼育場に移動させ、屋外と屋内を仕切る扉を閉めたことを確認してから作業員は屋外展示場に入場する。しかし被災者は、虎が屋外展示場に居るにもかかわらず屋外展示場に入場したものである。	120109	90	50～ 99
			建物所有者から依頼され建物屋根の雪下ろし・排雪作業を6名で実施。別棟の雪下ろしが完了したため、災害発生建物の屋根の雪下ろしを4名			

2017	1	10 ～ 11	で実施していたところ、被災者が屋根の端部に近づいてしまったため、雪庇状態となっている雪の上に登ってしまい、雪庇部分を踏み抜いて高さ7.6m下の地面へ墜落し、死亡した。保護帽（飛来・落下物用及び電気用のもの）は着用していたものの、安全帯等の着用・使用はなかった。	30199	1	10～ 29
2017	1	10 ～ 11	競走馬調教作業中、強風に驚いた競走馬が調教不能になったことから、ラチ（木製の柵）に激突した弾みで騎乗していた被災者が地面に墜落し、頭部を強打したため意識不明になった。1週間後、搬送先の病院にて死亡を確認。ヘルメットの着用あり。	70101	1	1～9
2017	2	8 ～ 9	前日にゲレンデ上方のコース外斜面において雪崩が発生したことから、積雪量・新雪量を考慮し、人工的に雪崩を発生させてコース内へ流入しないよう対策を講ずることとなった。被災者を含む4人でスキークット（スキーで滑り、新雪部分に雪崩を発生させる方法）スタート地点に行き、1人目、2人目（被災者）が滑ったが雪崩が発生せず、3人目が滑っている際に雪崩が発生し、3人が巻き込まれ、うち被災者が死亡、同僚2名は不休。	40101	5	50～ 99
2017	2	10 ～ 11	作業員5名がそれぞれ刈払機を使用して畑の下刈り作業を行っていたところ、1名の頭部に落雷があり、死亡した。	10109	13	1～9
2017	3	8 ～ 9	開園準備のため2名でアジアゾウ（体重3.5t）の洗体及びボディチェック中、ゾウが立ち上がろうとしたためなだめていたところ鼻で撥ねられ、柵の鉄柱に3回にわたり頭で押さえつけられた。同僚が助け出し病院に搬送されたが重傷頭部損傷による死亡が確認された。	140302	6	100 ～ 299
2017	10	16 ～ 17	蜂の巣の駆除を依頼され、被災者一人で巣を探していたところ、蜂（オオスズメバチ）に刺された。	170209	90	10～ 29
		14	被災者一人で牛舎の清掃を行うため牛の追い出し作業を行っていたところ、牛に激突された。その後、被災者は自力で柵の外に脱出し、倒れて			



2017	12	～ 15	いた所を事業場内を巡回していた労働者に発見された。発見時は被災者の意識があり、胸の痛み及び呼吸苦を訴えていたが徐々に意識が無くなり、救急搬送されたが死亡した。	70101	6	1～9
2016	1	8 ～ 9	当該事業場所属の労働者が事業場に出勤するため事業場敷地内の屋外通路を歩いていたところ、仰向けに倒れている被災者を発見した。即時、救急車にて医療機関に搬送されたものの、受傷から3日後、入院先の医療機関において急性硬膜下血腫により死亡した。	10803	2	100 ～ 299
2016	3	11 ～ 12	被災者と同僚が災害発生現場であるゴルフ練習場の天井グリーンネットの修繕作業に従事し、被災者は地上に降ろした天井グリーンネット上に座りながら当該作業をしていたところ、突風（じん旋風）がゴルフ練習場で発生した。その直後、同僚が被災者の方を確認したところ、被災者はグリーンネットに絡まった状態で頭から血を流して倒れていた。	150101	1	10～ 29
2016	7	14 ～ 15	ホテル内プールオープンのため、植木の剪定作業を行っていた施設管理担当の被災者が14時30分頃「蜂に刺された」と言って事務室に塗り薬を借りに現れた。約20分後、再び事務室に現れた被災者は机に手を付き、脂汗を流しながら「気分が悪いから近くの病院へ行ってくる」と言った直後、意識不明瞭となったため、救急車で病院に搬送されたが死亡した。	140101	90	30～ 49
2016	8	13 ～ 14	園内サファリゾーンにある日本ゾーンにおいて、被災者が専用の軽自動車内で動物の監視をしていたところ、同ゾーン内に放たれていたツキノワグマ（雄、体長約1.7m、体重約110キロ）に襲われた。被災者は、左脇腹や胸をかまれ、肺損傷出血性ショックで死亡した。	120109	90	50～ 99
2016	9	7 ～ 8	放牧地から集牧するため、被災者と同僚3人がそれぞれ2頭の馬を引き連れ厩舎に向かって縦に並び歩いていたところ、被災者の後方を歩いていた馬4頭が急に何かに驚き前に走り出し、4頭が集団で被災者に突っ込み巻き込まれた際、頭を路面に打ち付けた等により、クモ膜下出血及び頭蓋骨骨折で2日後に死亡した。	70101	6	10～ 29
			被災者はレース出馬前の馬を、厩舎内の洗い場で、単独で手入れをして			

2016	9	10 ～ 11	いたが、馬が暴れる音を聞いた同僚が、洗い場に行ったところ、うつぶ せで倒れている被災者が発見された。発見直後、病院に搬送されたが、 死亡した。	140309	6	1～9
2016	11	5 ～ 6	被災者は、施設の監視委託業務中において、施設内の屋外駐車場で転倒 し、後頭部を凍結路面に打ちつけ脳挫傷により死亡した。	11603	2	1～9
2016	12	7 ～ 8	出勤のため、事業場構内を歩行中、凍結した路面で転倒し、負傷した。 その後、病院に入院し治療していたが、死亡した。	11709	2	30～ 49
2016	12	8 ～ 9	青果場の敷地内に止められた乗用車の後方で、頭部から出血し倒れてい る被災者が発見された。被災者は、病院にて治療を受けていたが、翌日 死亡が確認された。	80109	2	10～ 29
2015	7	12 ～ 13	被災者は、競馬場敷地内にある装鞍所において、競走馬を引いて周回行 動をしていたところ、当該馬が装鞍所中央部の植え込み部に進入したた め、引き綱を引いて戻そうとしたところ、転回した当該馬の左後ろ足に 左後頭部を蹴られ被災したもの。（ヘルメットは着用していたが保護の ない耳の後ろを蹴られたもの）	70101	6	10～ 29
2015	6	15 ～ 16	装鞍所内西側 2 号馬房につながれた競走馬の馬体検査のため、左側面か ら前に出たところ、突然、馬が立ち上がり、馬の左前足が被災者の左肩 にかかったため、引き倒され、転倒し頭部を打撲したもの。救急搬送さ れ、病院にて加療していたが、10月30日に死亡したもの。	170209	6	30～ 49
2015	1	15 ～ 16	被災者は作業員等 5 名とともに造林地にて植栽木の枝払い作業を行って いたところ、一部の作業員が熊らしき黒い物体を発見して即座に避難し たが、被災者だけ見当たらなかったため、現場付近を搜索したところ、 被災者が熊の巣穴付近にてうつ伏せの状態で見つかるのを発見したも の。同日中に脳挫傷等により死亡確認。	60209	90	10～ 29
		17	被災者は、厨房部門の調理員であるが、エゾフクロウの餌付けのため			

2015	2	～ 18	に、ロビーから一望される沢に設置された生簀に活魚を入れる作業を行うに際し、川岸を除雪していたところ転倒し、溺水により死亡したものの。	140101	10	30～ 49
2015	10	14 ～ 15	牧場搾乳舎の屋根の補修（応急処置）を6名（屋根上4名、高所作業車1名、地上1名）で行っていたところ、風により屋根鉄板が吹き上がり、屋根鉄板の上に乗っていた被災者4名が屋根鉄板とともに吹き飛ばされ、死亡者1名を含む3名が地面に、1名が高さ違いの低い屋根に墜落したもの。なお、屋根は切妻で、地上から棟（頂点）までは12m、軒まで7.25m、死亡者の位置は9.75mであった。	30209	1	10～ 29
2015	1	23 ～ 24	被災者が事業場敷地内の私道を通行していたところ、私道脇の高さ約5m法面上に生えている高さ約5mの木が積もった雪の重みで根から倒れ、雪がなだれ、被災者の左胸に枝が激突し、かつ木に積もっていた雪に埋もれた。激突した木の枝は、そのまま被災者の胸を圧迫し、かつ、被災者の頭部も雪に埋もれたため呼吸困難となった。被災者は、病院へ搬送され蘇生処置に成功したものの低酸素脳症で意識不明となり3月17日に死亡した。	140101	5	10～ 29
2015	4	14 ～ 15	平成27年4月17日午前3時半ころ刺し網船7.3tに乗組員3名が乗り込みタラ漁のため港を出港。11時間半が経過し漁を終えて港に帰港する際の午後2時57分頃、漁船から海上保安本部に通報が入り同日午後5時50分頃、沖22kmの海上で転覆した漁船が発見された。また、漁船発見後の約30分後に海上に浮いている被災者Aを発見、行方不明の被災者Bが9月14日死亡認定	70201	10	1～9
2015	2	11 ～ 12	被災者は、割れた窓ガラスの交換が予定されていた箇所周辺の除雪作業を行った。その後、会社の携帯電話を失くしたことごとに気がつき、一人で除雪した場所に戻って携帯電話を探していたところ、近くの雪壁が崩れて雪に埋まり胸部圧迫による窒息で死亡した。被災者が発見された場所の周辺には高さ2m24cmの雪山（雪壁が崩れた形跡あり）があった。	10109	5	10～ 29

2015	4	14 ～ 15	平成27年4月17日午前3時半ころ刺し網船7. 3 tに乗組員3名が乗り込みタラ漁のため港を出港。11時間半が経過し漁を終えて港に帰港する際の午後2時57分頃、漁船から海上保安本部に通報が入り同日午後5時50分頃、沖22kmの海上で転覆した漁船が発見された。また、漁船発見後の約30分後に海上に浮いている被災者Aを発見、行方不明の被災者Bが9月14日死亡認定	70201	10	1～9
2015	7	13 ～ 14	被災者は、除草作業中、蜂に刺されて負傷し、入院中、翌日の午前1時49分に死亡した。	150101	90	30～ 49
2014	2	14 ～ 15	被災者は、台船を牽引中の船を操縦していた同僚から緊急要請を受け、別の同僚1名とタンカー船で救援に向かった。タンカー船が台船の後方に近づき、被災者がタンカー船の船首から台船に移ろうとしたところ、湖へ落水した。タンカー船を操縦していた同僚が、すぐに救出を試みたが、荒天により救出できず行方不明となり、後日湖岸で発見された。	30199	10	10～ 29
2014	2	4 ～ 5	自動車を運転し新聞の配送を行っていたところ、積雪のためスリップし、道路脇の用水路に転落した。	80205	17	30～ 49
2014	4	9 ～ 10	浄水場回りの藪の中に入り、落ち葉を熊手でかき集める作業を行っていたところ、ハブに手甲部分を咬まれ、病院に搬送されたが、心肺停止により死亡した。	11603	90	1～9
2014	7	11 ～ 12	住宅敷地内の竹林の伐木作業を行っていたところ、首筋と耳の2カ所を蜂に刺され、死亡した。	30309	90	100 ～ 299
2014	8	11 ～ 12	牛舎の清掃のため、牛小屋に入った際、牛があばれだし、角などで突かれ、腹腔内大量出血により死亡した。	70101	6	1～9
		10	被災者は、放牧場の牧柵の内側に仰向けに倒れているのを、同僚に発見			

2014	8	～ 11	された。近くに種牛がロープで牧柵の外側につながれており、被災者の背や腰に擦り傷があり、腹部で大量の内出血があった。	70101	6	1～9
2014	9	5 ～ 6	調教中の馬が放馬されている馬場内を確認したところ、コース内の外周ラチ付近で倒れている被災者が発見された。被災者は、頭部外傷による急性硬膜下血腫により死亡した。	70101	1	10～ 29
2014	9	11 ～ 12	高圧線鉄塔敷地及び巡視路の除草作業中、被災者は数十匹のオオスズメバチの群れに襲われ、倒れているところを同僚に発見された。	30309	90	10～ 29
2014	12	10 ～ 11	軽トラックにて走行中、カーブを通過した際、道路が凍結しており、タイヤがスリップし、道路左側のガードレールに激突。その後対向車線にはね飛ばされ、対向車のダンプトラックと正面衝突した。	30111	17	10～ 29
2013	1	9 ～ 10	機械集材装置による伐倒木の集材作業中、被災者は先山で伐倒木の荷かけ作業を1人で行っていたが、被災者から吊り上げの合図がないことを不審に思った集材装置の運転者が、先山まで様子を見に行ったところ、傾斜面中腹部で被災者がうずくまるように前向きに倒れた状況で発見された。発見時、被災者は意識が無く、ヘルメットは着用した状況であったが、額に強い衝撃を受けた痕が認められた。	60201	4	1～9
2013	11	23 ～ 24	出張先の短期賃貸マンションの7階から出火して火災となり、9階に住していた被災者が逃げ遅れ、9階の階段踊り場付近で倒れて死亡した。	30203	16	300 ～ 499
2013	1	2 ～ 3	被災者は、営業所の2階の出張者が寝止まりできる宿泊部屋として利用されていた部屋に宿泊をしていた際、当該宿泊部屋から出火し、窒息、高度気道熱傷により死亡した。	30106	16	10～ 29
2013	7	10 ～ 11	被災者は、ゴルフコース脇の雑木林内に入り、一人で電柱付近に生えていた雑草の草刈り作業（鉈を使用）を行っていたところ、背中を蜂に刺された。その後、少し離れた場所に停めてあった作業用の軽トラックまで自力で移動したが、助手席で倒れているところを同僚に発見され、病	140301	90	10～ 29

			院に搬送されたが死亡が確認された。			
2013	1	16 ～ 17	被災者は、牧場の牛舎において、雌牛の搾乳前に、雄牛を麻のロープで牛舎の柱にくくりつける作業を行っていた。その時、雄牛が突然暴れだして、被災者を2～3 m突き飛ばした。被災者は、コンクリート塀（高さ50 cm）に激突し、尻もちをつく格好で倒れこんだ。近くにいた労働者2名が雄牛を追い払い、被災者を牛舎内から通路側に救出し、救急搬送したが死亡した。	70101	6	1～9
2013	7	14 ～ 15	山中において下草刈り作業を行っていた被災者は、作業中背面をスズメバチに刺され、アナフィラキシーショックにより死亡した。	60209	90	30～ 49
2013	10	14 ～ 15	納品先にて、納品のためトラックの荷室後方の扉（3枚扉のうち中央の1枚）を開け、荷物を運ぶための台車を取ろうとした際、開けた扉が強風にあおられ、被災者の頭部に激突した。	40301	6	30～ 49
2013	10	0 ～ 1	台風通過後の国定公園内の登山道の安全状況を確認するため、被災者は、登山道に入山したまま行方不明となった。警察が捜索を行ったところ、滝つぼ内に浮かんでいる被災者が発見された。	170209	1	1～9
2013	11	14 ～ 15	植栽地の雑草を取り除く作業を、被災労働者を含め4名の労働者が行っていた。地面から高さ約3.9 mに位置する芝生が生成する箇所で作業を行っていた被災者が地面に転落、頭部を強打し、脳内出血により死亡した。	60101	1	1～9
2013	1	12 ～ 13	馬の調教を行うため、厩舎から馬場へ馬を引いていた。馬場前で騎手を乗せる準備をしていたところ、暴れた馬の頭部が被災者の胸部に当たり、飛ばされた拍子に頭部をアスファルトにぶつけた。	140309	6	1～9
2013	8	11 ～ 12	工事区域内において、立木調査を行っていた被災者は、倒木付近にあったスズメバチの巣に気付かず刺激を与えてしまい、全身をスズメバチに刺され、病院に搬送されたが、アレルギー症状により死亡した。	170209	90	10～ 29
		9	被災者は、光ファイバケーブル敷設工事作業を、高所作業車を使用して			

2013	8	～ 10	行っていた。突然「蜂に刺された」と言いながら、バケットを自ら操作し降りてきたものの、降車後、ぐったりし発汗状態となり、呂律が回らない状態になったため救急搬送された。	30301	90	10～ 29
2013	3	～ 10	被災者は、窪地水中の調子が悪かった排水ポンプをブレーカーのピックで吊り上げるために、窪地の排雪路上をブレーカーで走行中、路肩が崩壊し、ブレーカーとともに窪地水中に転落し、溺死により死亡した。	20201	1	10～ 29
2013	1	～ 15	珣のカントリーエレベーター建築現場において、切妻屋根上（軒高6.3 m）の足場を解体し、敷角下の敷板を外した後、屋根上の積雪が軒先方向に滑り出し、屋根上の作業員2名が巻き込まれ、軒先に面した足場上の作業員1名が押し出され、墜落し、落雪に埋もれた。うち、1名が雪で窒息死した。	30201	5	10～ 29
2013	9	～ 8	民有林の造林現場において、被災者含む4名で刈払機による下草刈り作業中、被災者は、右腕と手指を蜂（オオスズメバチ）に刺されたことから、すぐに病院に行くため、約200 m先の駐車場まで歩いていたところ、途中で意識を失って倒れた。すぐに救急車を要請し、病院に搬送されたが死亡した。	60209	90	1～9
2013	2	～ 2	被災者は、道路除雪委託業務における道路の排雪作業の工程管理（写真撮影含む）として深夜作業に従事していたが、排雪直後の路面で転倒し頭部を強打した。作業終了後に、会社事務所で「転倒し頭部を強打した」旨を話していたが、その後に様態が急変し緊急入院したが、急性硬膜外血腫により死亡した。	30199	2	30～ 49
2012	10	～ 3	低速で走行中、歩行者の男性2名にタクシーを蹴られたため、停車して注意をしたところ、いきなり運転席のドアを開けて殴りかかってきた。車内から引きずり出されて金網に押し付けられ、後頭部を何度も殴打された。	40201	90	10～ 29
2012	10	～ 3	母親のアジア象が出産した仔象を攻撃していたため、被災者を含めた3名の飼育員が母親象の檻の中に入り、母親象と仔象を引き離そうとしていたところ、被災者は母親象に鼻で飛ばされ、仰向けに倒れたところを足	140302	6	100 ～

		4	で踏まれ、救急搬送先の病院で死亡した。			299
2012	4	10 ～ 11	事業場であるクマ牧場にて、複数の労働者で牧場内の通路の除雪作業、クマへの餌やり作業等を行っていたところ、運動場から逃げ出したクマ（ヒグマ）に被災者が襲われ死亡した。なお、当該運動場は、コンクリート塀で囲まれ、更に上部には柵（フェンス）が設けられていたが、運動場は雪が溜まった状態（雪山）となっており、クマは当該雪山をよじ登って柵を越え、脱走した。	140309	90	1～9
2012	4	10 ～ 11	事業場であるクマ牧場にて、複数の労働者で牧場内の通路の除雪作業、クマへの餌やり作業等を行っていたところ、運動場から逃げ出したクマ（ヒグマ）に被災者が襲われ死亡した。なお、当該運動場は、コンクリート塀で囲まれ、更に上部には柵（フェンス）が設けられていたが、運動場は雪が溜まった状態（雪山）となっており、クマは当該雪山をよじ登って柵を越え、脱走した。	140309	90	1～9
2012	2	10 ～ 11	事業場へ戻る際、高速道路を被災者の運転する積載車のほか一般車両数台が連なって走行中、当該車両複数台が絡む衝突事故が発生し車線をふさぐ形で停車したため、最後尾を走行していた被災者は積載車から降りて事故状況を確認していたところ、後続車両が更に追突し、押し出された積載車と前方車との間に挟まれた。	11701	17	1～9
2012	2	8 ～ 9	住宅の屋根にできた氷及び雪庇の除去作業において、元請作業者が氷をチェーンソーで切断し、被災者がハンマーを使って雪庇を砕く作業を行っていたところ、氷を1m程切断したところで雪庇が倒壊し、被災者がその下敷きとなり窒息により心肺停止となった。	30199	4	1～9
2011	2	8 ～ 9	被災者が2 tトラックを運転して仕入先に向け走行中、前夜から早朝にかけての降雪の影響により、前方大型車両のスリップ事故渋滞に遭遇した。その状況確認のためトラックより下車して凍結路面を歩行中、滑って転倒したもの。被災者は、右腕及び後頭部を強打し、3日後の2月18日、22時頃、急性硬膜膜下血腫により死亡した。	11502	2	100 ～ 299



2011	10	8 ～ 7	トレーニングセンター内において、競走馬の準備運動のため、乗馬した状態で厩舎周辺の馬道を歩かせていたところ、突然暴れだし、乗馬していた厩務員が振り落とされ、馬道周辺の木に当たり、車道側へ落ちた。	70101	1	1～9
2011	8	12 ～ 13	新設する橋の橋台施工の作業場所において、被災者が測量の前段階である草刈り作業中に虫に刺されたため、作業場所に近接した休憩場所まで歩いて休んでいたところ、同僚が意識不明の被災者を発見した。病院に搬送されたが、死亡が確認された。	30105	90	1～9
2011	12	5 ～ 6	運転代行業務を行った後、自動車を運転して客待ち待機場所へ戻るため国道を走行中、路面凍結によりスリップし、道路左側の防雪柵に衝突した。また、助手席に乗車していた同僚労働者も頭部に裂傷を負った。	170209	17	1～9
2010	12	13 ～ 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したもの。	140309	5	30～ 49
2010	12	13 ～ 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したもの。	140309	5	30～ 49
2010	12	13 ～ 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したもの。	140309	5	30～ 49
2010	12	13 ～ 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したもの。	140309	5	30～ 49
			被災者はタクシー乗務中、公園横の路上に仰向けの状態で倒れているのを他社のタクシー運転者が発見、救急車で病院に搬送したが3日後に死			

2010	12	5 ～ 6	亡したもの。被災者が倒れていた場所は、タクシー前部の歩道と道路の境界付近で、道路側に向かってやや傾斜し、滑りやすい状況であった。公園のトイレを利用するため、タクシーから降車又は乗車時に凍結した路面に足を取られ転倒したとみられる。	40201	2	100 ～ 299
2010	12	19 ～ 20	簡易書留の配達に出たまま帰らないため同僚が警察に通報し、警察署員が配達車両から約30m離れた町道脇の川（幅2.2m、深さ2.8m、水深10cm）に転落しているのを発見した。配達物を手に持ち、うつ伏せに倒れていた状況から、配達先の門前に車両を停車して、門が閉まっていたため不在を確認めようと配達先の裏に回ったところ、夜で街灯も近くにないため、足下の川が見えずに転落したものとみられる。	110101	1	100 ～ 299
2010	10	15 ～ 16	地熱発電所内の生産井の近傍に発生した噴気孔により設備被害が発生したため、生産井の停止作業及び噴気孔の沈静化作業を3名で行っていた際、水蒸気爆発が発生し、噴出した熱水、土砂等により逃げ遅れた2名のうち1名が火傷を負い、1名が土砂等に埋もれ死亡した。	30199	14	30～ 49
2010	10	11 ～ 12	牛舎内の牧柵の溶接修理作業を行うため、修理箇所の確認を行っていたところ、不意に牛が被災者にぶつかってきて、被災者はそのまま牧柵との間に胸を挟まれ、入院先の病院で死亡した。短時間作業であったため、牧区内の牛を牧柵で隔離していなかった。	70101	7	1～9
2010	10	19 ～ 20	被災者が、施設内の倉庫前廊下で倒れて死亡しているのが発見された。	130201	90	50～ 99
2010	7	13 ～ 14	住宅周辺の樹木の剪定作業中、蜂に刺され、病院に搬送されたが、その後ショックにより死亡したものである。	60101	90	1～9
2010	6	14 ～ 15	被災者を含む7名で水田のあぜ道の草刈り等の作業を各自離れた位置で行っていたところ、近くを通りかかった高校生が水田の中に倒れている被災者を発見し、救急車で病院に搬送したが、約1週間後、肺炎により	60101	90	10～ 29

			死亡した。			
2010	3	18 ～ 19	被災者は事業場敷地内の屋外ゴミ集積場にゴミ捨て後、社屋に戻るため屋外駐車場を歩行中、凍結路面により足を滑らせ転倒し頭部を強打した。頭部から出血し倒れていたところを発見された。その後入院加療中であったが、約3か月後に死亡した。	80409	2	1～9
2010	2	19 ～ 20	道路に被災者が仰向けの状態で倒れているところを、近隣住民により発見されたもの。被災者はトラック（12t箱型）を運転し、事業場の敷地から道路に出たところ、タイヤがスリップしたため、タイヤチェーンを置き運転席に戻る途中、足を滑らせて転倒した際に、頭部を強打したとみられる。	40301	2	1～9
2010	1	7 ～ 8	牛舎の清掃作業を行っていた女性作業員が、付近にいた雄牛（体重600kg）と接触した後、頭部を牛舎内の柵に強打し、死亡したもの。当該柵には柵材固定用の金属ナットがあり、5cmの突起のある形状であった。被災者は当該ナットで頭部を強打したものと推定される。	70101	6	1～9
2009	3	15 ～ 16	山林の山中にある木材を搬出するための架線設置予定現場において、同架線設置のための控え線を張る準備の補助作業を終えて、工具を持って山道を歩いて下りはじめたところ、山道から足を踏み外し約30m下に転落した。	60201	1	1～9
2009	11	15 ～ 16	山中において、代表者と被災者の2人で測量中、被災者が蜂（オオスズメバチ）に刺され、下山途中に意識不明となり、病院に運ばれたが同日死亡した。	170209	90	1～9
2009	8	23 ～ 24	台風の接近に伴い、掘削した地山の監視のため現場事務所に3人で当直勤務をしていた。事務所前の川が増水し事務所が冠水したため国道にある道の駅に避難しようとしたところ、冠水した川付近の県道で被災者が運転する軽トラックのエンジンが止まり、冠水した県道で立ち往生し軽トラックごと川に流された。翌日被災者は流された位置から500m離れた田圃の中で発見された。	30106	10	1～9
			民有林内（斜度約35度、林道から500m入った地点）で間伐作業を行って			

2009	11	10 ～ 11	いた被災者が、作業中に斜面で滑り転倒したため、作業を中止し下山していたところ途中で倒れてしまった。5時間後に下山していないことを心配し捜索した同僚に発見され、病院へ搬送されたが死亡した。	60209	2	1～9
2009	12	0 ～ 1	被災者は、代表者と当該事業場の元作業員である。フリーカメラマンとともに、スノーハイクでの雪山における指導方法等を学ぶために、研修として登山に行ったが、遭難して死亡した。なお、同行していたフリーカメラマンも被災者らと一緒に遭難し死亡した。	170209	11	1～9
2009	1	7 ～ 8	乳業事業本部内の牛舎において牛舎内の除糞作業を行うため牛舎の柵の外側から雄牛の鼻輪をロープで支柱に繋ごうとしたところ、ロープが柵内に入ってしまった。被災者はロープを拾うために柵内に入り、雄牛に激突され柱と雄牛にはさまれた。	10101	6	30～ 49
2009	12	16 ～ 17	同僚3人と河川堤防法面（勾配27度）の草刈作業を行っていた被災者が、誤って川に転落して溺死した。	30309	10	1～9
2009	10	15 ～ 16	競走馬の計量のため、同僚乗務員と2人で競走馬を馬衡所内にある計量マットの上に誘導し乗せたところ、馬が興奮して馬衡所の出口から飛び出し、手綱を持っていた被災者は手綱をはなさなかったためそのまま引っ張られ転倒し、その後も地面を引きずられた。その後、被災者は、約5ヵ月後に死亡した。	70101	3	10～ 29
2009	10	14 ～ 15	作業員4人で保育間伐及び伐倒木の木寄せ（整理）作業において、玉切り済みの木を整理していた被災者が、蜂に刺された。被災者は同僚に「蜂に顔を刺された」と言って、薬を置いていたところまで自力で歩き（約40m）、薬を持ったまま意識を失った。その後、搬送された病院で死亡が確認された。なお、刺された原因等、詳細は不明である。	60209	90	10～ 29
2009	5	12 ～	被災者は揚水機場の水路管理運営（午前7時～翌午前7時の断続的作業）に従事しており、午後6時に計器の数値を測定後、一度夕食のために自宅に帰ることが日課となっていた。しかし、いつものように帰宅しなかつ	170209	10	1～9

		13	たため、不審に思った家族らが現場を検索したところ、水路（水深は約2m）でおぼれていた。			
2008	11	10 ～ 11	被災者は朝から高原牛舎でトラクター・ショベルを用いて堆肥を牛舎から搬出する作業を行っていた。昼過ぎに同僚が高原牛舎に牛の餌を搬入しに来たところ、牛舎の付近で倒れている被災者を発見した。	70101	6	10～ 29
2008	7	15 ～ 16	化学工場棟の増設工事において、被災者が駐車場から作業場所へ徒歩で向かっていたところ、約20m先に落雷して感電した。	30309	13	1～9
2008	8	13 ～ 14	植木の枝切りり作業中、蜂に数箇所を刺された。同僚の男性が患部を冷やすため氷を買って戻ってくると被災者が痙攣状態で倒れていた。	60101	90	1～9
2008	7	14 ～ 15	河川環境対策工事として実施した堤防の除草作業中、蜂に刺されて意識を失い病院に搬送後、死亡した。	30199	90	30～ 49
2008	9	10 ～ 11	作業者の3人が事業場に隣接する新店舗建設予定地の購入範囲を確認するために、被災者の案内で同土地内の山林に入り境界を確認しながら歩いていたところ、数匹のスズメ蜂が3人を襲い、集中的に刺された被災者が死亡した。	80204	90	1～9
2008	5	14 ～ 15	被災者が2階の窓から中2階屋根上に上り、当該屋根の雪にホースで湯をかけて溶かしていた際、当該屋根雪と繋がっていた2階の屋根の雪（幅510×長さ400×高さ280cm）が2階の屋根から滑落してきて、被災者がそれに巻き込まれた。	140101	5	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	地震により旅館建屋付近の斜面から崩れた土砂が建屋脇を流れる沢を埋めた。このため上流からの土石流の流れが遮られて土石流が旅館建屋の方に流れ込み、経営者家族4名、作業員3名、宿泊客2名の計9名が飲み込まれた。	140101	5	1～9
		8	地震により旅館建屋付近の斜面から崩れた土砂が建屋脇を流れる沢を埋			

2008	6	～ 9	めた。このため上流からの土石流の流れが遮られて土石流が旅館建屋の方に流れ込み、経営者家族4名、作業員3名、宿泊客2名の計9名が飲み込まれた。	140101	5	1～9
2008	6	8 ～ 9	地震により旅館建屋付近の斜面から崩れた土砂が建屋脇を流れる沢を埋めた。このため上流からの土石流の流れが遮られて土石流が旅館建屋の方に流れ込み、経営者家族4名、作業員3名、宿泊客2名の計9名が飲み込まれた。	140101	5	1～9
2008	1	6 ～ 7	出勤のため、事業場敷地内の駐車場から、社屋に向け歩いていたところ、雪で足を滑らせ転倒した。	40202	2	100 ～ 299
2007	9	14 ～ 15	県道の道路工事に伴う交通誘導警備作業において、休憩後被災者が体調不良を訴え、引き続き日陰で休み、同僚が被災者を移動させようとしたところ、被災者は意識が朦朧とし、立ち上がることができなかったため、病院へ搬送されたが、死亡した。	170201	90	30～ 49
2007	12	7 ～ 8	会社のライトバンにて現場へ向かう途中、道路をはずれ車が横転した。路面凍結によるスリップ事故である。	30201	17	10～ 29
2007	6	8 ～ 9	公園駐車場で、自動車の車内で待機中の被災者が、車内で死亡しているのを他の同僚が発見した。	170201	90	300 ～ 499
2007	8	14 ～ 15	被災者は、伐採前の現地調査のため入山、作業を開始した。同僚の伐採した木が、スズメバチが巣を作っている木の方向に倒れた。その後、被災者がスズメバチが巣を作っている木を伐採しようと近づいたときに、スズメバチに右耳と左肩の2箇所を刺された。同僚が現場近くの人家に被災者を運び、蘇生施術を施したが死亡した。	60201	90	1～9
2007	1	13 ～ 14	牛舎内の牛の寝床の敷料（麦かん）を敷く作業を同僚と2人で行う予定となっていた被災者が寝床内で牛に激突され倒れているのを同僚が発見した。	70101	6	1～9

2006	12	17 ～ 18	被災者は一人で自家用車を使用して新聞を配達していたが、配達中に転倒した。転倒後、自分で車を運転して自宅に戻り、事業場に報告した後家族と共に病院に行った。被災者は病院で治療を受けていたが、死亡した。	80205	2	30～ 49
2006	12	8 ～ 9	調教の終わった馬が騎手から被災者に受け渡され、被災者が騎乗して厩舎に戻ろうとした途中に、当該馬が後ろ足で跳ねたため、バランスを崩し馬の首の上に抱きつくような状態になり、ゆっくりと滑りながら地面に墜落し、被災した。	70101	1	10～ 29
2006	11	11 ～ 12	被災者が牛舎において、乳牛の牛追い作業を行っていたところ、牛舎の端にロープで繋がれていた黒毛和牛（オス、種牛）に激突された。黒毛和牛を繋いだロープの長さは約5.5mであった。	70101	6	30～ 49
2006	11	13 ～ 14	事務所2階の会議室において、17名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下10名が1階事務所に帰り、2階会議室に残って打合せを続行していた7名と遅れて参加した1名の合わせて8名が打合せ中、突然、風速50m毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2階会議室に居た8名と1階事務所に居た1名が20mから70m吹き飛ばされた。	30102	90	1～9
2006	11	13 ～ 14	事務所2階の会議室において、17名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下10名が1階事務所に帰り、2階会議室に残って打合せを続行していた7名と遅れて参加した1名の合わせて8名が打合せ中、突然、風速50m毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2階会議室に居た8名と1階事務所に居た1名が20mから70m吹き飛ばされた。	30102	90	1～9
2006	11	13 ～ 14	事務所2階の会議室において、17名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下10名が1階事務所に帰り、2階会議室に残って打合せを続行していた7名と遅れて参加した1名の合わせて8名が打合せ中、突然、風速50m毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2階会議室に居た8名と1階事務所に居た1名が20mか	30102	90	1～9

			ら 7 0 m 吹き飛ばされた。			
2006	11	13 ～ 14	事務所 2 階の会議室において、17 名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下 10 名が 1 階事務所に戻り、2 階会議室に残って打合せを続行していた 7 名と遅れて参加した 1 名の合わせて 8 名が打合せ中、突然、風速 50 m 毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ 建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2 階会議室に居た 8 名と 1 階事務所に居た 1 名が 20 m から 70 m 吹き飛ばされた。	30102	90	50～ 99
2006	11	13 ～ 14	事務所 2 階の会議室において、17 名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下 10 名が 1 階事務所に戻り、2 階会議室に残って打合せを続行していた 7 名と遅れて参加した 1 名の合わせて 8 名が打合せ中、突然、風速 50 m 毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ 建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2 階会議室に居た 8 名と 1 階事務所に居た 1 名が 20 m から 70 m 吹き飛ばされた。	30102	90	50～ 99
2006	11	13 ～ 14	事務所 2 階の会議室において、17 名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下 10 名が 1 階事務所に戻り、2 階会議室に残って打合せを続行していた 7 名と遅れて参加した 1 名の合わせて 8 名が打合せ中、突然、風速 50 m 毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ 建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2 階会議室に居た 8 名と 1 階事務所に居た 1 名が 20 m から 70 m 吹き飛ばされた。	30102	90	10～ 29
2006	11	13 ～ 14	事務所 2 階の会議室において、17 名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下 10 名が 1 階事務所に戻り、2 階会議室に残って打合せを続行していた 7 名と遅れて参加した 1 名の合わせて 8 名が打合せ中、突然、風速 50 m 毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ 建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2 階会議室に居た 8 名と 1 階事務所に居た 1 名が 20 m から 70 m 吹き飛ばされた。	30102	90	10～ 29
		13	事務所 2 階の会議室において、17 名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下 10 名が 1 階事務所に戻り、2 階会議室に残って打合せを続行していた 7 名と遅れて参加した 1 名の合わせて 8 名が打合せ中、突然、風			10～



2006	11	～ 14	速50m毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ`建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2階会議室に居た8名と1階事務所に居た1名が20mから70m吹き飛ばされた。	30102	90	29
2006	11	13 ～ 14	事務所2階の会議室において、17名で毎日の打合せ会議が行われ、所長以下10名が1階事務所に戻り、2階会議室に残って打合せを続行していた7名と遅れて参加した1名の合わせて8名が打合せ中、突然、風速50m毎秒以上の竜巻が発生し、プレハブ`建ての事務所が一瞬で吹き飛ばされ、2階会議室に居た8名と1階事務所に居た1名が20mから70m吹き飛ばされた。	30102	90	10～ 29
2006	11	5 ～ 6	出荷されてきた牛を、搬送してきたトラックの運転手1名と牛の荷受け作業員2名で、荷下ろし作業中、被災者がトラックより降りた牛を計量器に引っ張って行く途中、牛が突然突進してきたため、逃げようとして鉄柵と鉄柵の隙間に身体を入れようとした時、牛が追突し、鉄柵と牛との間にはさまれた。	80109	6	50～ 99
2006	10	10 ～ 11	民有林内において、被災者は他の作業員と離れて単独で除間伐のための笹刈り作業を行っていた。同僚作業員が地面に倒れている被災者を発見し、直ちに病院に搬送したが、死亡が確認された。被災者を発見した当時、その周りには複数の大スズメバチが飛んでいた。	60201	90	10～ 29
2006	8	12 ～ 13	道路上において、4tトラックから牛5頭を降ろし、牛舎に入れる作業を3名で行っていた時、最後の1頭が逃げ出したため、被災者が取り押さえようとしたところ、牛が激突し、被災者が仰向けに転倒し強打した。	10101	6	1～9
2006	8	9 ～ 10	市有林の間伐作業現場で、伐採作業を行っていた被災者がスズメバチに刺された。	60201	90	1～9
		14	土留め工事開始日のため、午前中に準備作業と2時間ほど親杭打設作業を行い、1時間ほど昼休みを取った。13時から引き続き作業を行って			

2006	8	～ 15	いたところ、１４時３０分頃に手元作業を行っていた被災者が休憩室に入りお茶を飲んで休憩していたが、しばらくして倒れた。そのため、すぐに冷たい飲み物等で体を冷やしたが、それでも様子が悪そうに見えたので救急車を手配したところ、翌日病院で死亡した。	30201	11	1～9
2006	7	17 ～ 18	作業現場内を巡視していた被災者ほか１名は、雷鳴が接近してきたため作業を中止させることとし、手分けして作業員に中止を指示していたが、被災者が作業員に作業中止を指示しているときに、被災者に落雷した。	30109	13	1～9
2006	7	16 ～ 17	被災者は、ばん馬の能力検査を受検させるため、厩舎から新馬に裸馬（鞍を置いていない馬）状態で騎乗し同競馬場内の装鞍所へ移動中、同馬が突然暴れだして疾走したため騎乗していた被災者は落馬し、その後、同馬に蹴られた。	140309	6	1～9
2006	3	10 ～ 11	鶏の育成場でケージの掃除等の作業を行う被災者が、作業中に２階（ケージ設置階）から１階（鶏糞が堆積している階）へ墜落し、鶏糞を吸い込み死亡した。１階フロアから２階フロアまでの高さは２．５メートル。家族や同僚が捜索したところ、うつ伏せの状態で死亡した被災者が発見された。	70101	90	10～ 29
2006	4	10 ～ 11	集配業務に従事していた被災者が、荷降ろしする前にトラック後方の扉（観音開き２枚連結扉）を開こうとした際、強風によって押し戻された扉に激突され、その衝撃でアスファルト地面に打ちつけられた。	40301	6	100 ～ 299
2006	4	11 ～ 12	被災者は、荷受け先所属労働者にトラック左後方で血を流し倒れているところを発見された。倒れていた周辺には、荷の間仕切り用のベニヤ板等（１ｍ×２ｍ×厚さ１ｃｍ）が散らばっていた。	40301	2	10～ 29
2006	4	15 ～ 16	と殺室において、豚（オス、２００キログラム）を係留所から追込み通路を経由し、と殺室（約６平方メートル）に１頭ずつ移動させる作業を被災者と同僚の２名により行なっていた。と殺室内に入った豚が興奮したため、被災者が静止しようとしたところ、コンパネの盾（防護用約１２０ｃｍ×９０ｃｍ）と共に跳ね飛ばされ、床面に落下し、さらに豚が	10101	6	50～ 99

			被災者に突進したことにより、死亡した。			
2006	2	17 ～ 18	店舗の営繕を担当している被災者が軒先の氷柱を除去する作業中、屋根上から落下した氷の塊（約1 m×0.5 m）が激突し、負傷、その後、入院し治療を受けていたが、死亡した。	80209	4	10～ 29
2006	2	17 ～ 18	被災者の家族から会社に自宅に戻ってないとの連絡があり、工事現場の建屋屋根下の雪山を掘り搜索したところ、シャベルを下にうつぶせの状態で被災者を発見した。	30201	5	1～9
2006	1	8 ～ 9	土蔵屋根の雪下ろし作業を行うため、被災者与其他1名が土蔵屋根に立かけた移動はしごで屋根に上り、屋根上の雪をスノーダンプで掻き分けながら屋根の頂上部に向かって移動していたところ、屋根に積もった約2メートルの雪が全層雪崩の形態で屋根上から地上に滑り落ち、屋根上にいた両名がその雪とともに地上の雪面に滑落し、さらに屋根から滑り落ちてきた雪により被災した。	30199	5	1～9
2006	1	11 ～ 12	施設の除雪作業を工場従業員5名及び派遣労働者1名の計6名で行なっていたところ中、屋根上の1.4 mの積雪が突然作業員の上に崩落し、4名が雪に埋まりうち1名が死亡した。	11409	5	100 ～ 299
2006	2	13 ～ 14	河岸排水路におけるU字溝（長さ1 m、幅2 m、高さ2 m、重量2.8 t）設置作業において、U字溝を設置する排水路内の基礎コンクリートにはつりの必要が生じたため、当該U字溝を隣接工区の排水路上部の雪の上（3.2 m）へ仮置き後、排水路内ではつり作業の準備（4名）をしていたところ、当該U字溝が滑落し、排水路内にいた労働者2名がU字溝の下敷きとなり、1名が死亡し、もう1名も重体となった。	30107	4	10～ 29
2006	2	11 ～ 12	温泉にて、除雪及び源泉からお湯を供給するといの修復作業を行っていた被災者Aと同作業を手伝っていた被災者Bが雪崩に巻き込まれ、Aは救助されたものの、Bは意識不明の状態で発見され、その後、死亡が確認された。	30209	5	1～9
2006	1	14 ～	鉄骨2階建ての自然落下式の屋根上で雪下ろしの作業を8名で行っていたところ屋根に積もっていた約1.5 mの雪が滑り落ち、雪とともに作	11709	1	10～

		15	業員 2 名が屋根から約 2. 7 m 下の雪上に墜落した。			29
2005	7	9 ～ 10	草刈機を使用して除草作業中に、道路脇にあったスズメバチの巣を刺激したため、スズメバチに刺された。	30199	90	1～9
2005	1	8 ～ 9	事業場敷地内の床面に積雪があり、更に凍結していたため、歩行の際に足を滑らせ転倒した。	80204	2	1～9
2005	2	8 ～ 9	屋外ピッキング場所で作業に取りかかった際、凍結した路面に足をとられ転倒した。	11209	2	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	クマの飼育舎の清掃をしようとしたところ、ツキノワグマに襲われた。	120109	90	50～ 99
2005	1	20 ～ 21	災害復旧工事のため宿泊していた旅館において、入浴中、積雪により風呂場の屋根が崩落して生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2005	2	11 ～ 12	排水路の災害復旧工事現場において、降雪により中止していた工事の再開に向け、ドラグ・ショベル及び不整地運搬車を使用して、除雪作業を行っていたところ左岸側の山の上部から全層雪崩（堆積雪の幅22m、長さ21m）が発生し生埋めとなった。	30199	5	10～ 29
2005	3	19 ～ 20	除雪をしようと堆積した雪に登り、軒先を除雪していたところ、屋根に積もっていた雪が落ち、それに巻き込まれて用水路に転落した。	80209	5	1～9
2005	12	9 ～ 10	牧場の厩務員が馬に騎乗し、牧場内の馬場を調教のため走っていたところ、落馬した。	70101	1	1～9
		8				

2005	7	～ 9	個人宅の庭の手入れ作業中、スズメバチに刺された。	60101	90	1～9
2005	8	15 ～ 16	沈砂池設備周辺の清掃業務を被災者が行っていたところ、清掃の過程で周辺にあったスズメバチの巣を刺激し、スズメバチに刺された。	30106	90	10～ 29
2005	8	14 ～ 15	伐倒した木材の仮置き場において、グラップル付きトラックにより積込み作業を行っていたところ、グラップルの運転席で作業を行っていた被災者に落雷した。	40301	13	10～ 29
2005	2	14 ～ 15	有料道路を走行中、トンネル内において路面凍結によりスリップして走行車線の縁石に激突し、その反動で対向車線に横向きの状態ではみ出したところへ、対向車が衝突した。	80109	17	1～9
2005	4	11 ～ 12	道路の除雪工事のため移動していたところ雪崩が発生して巻き込まれ、道路下の斜面に転落した。	30110	5	1～9
2005	2	9 ～ 10	林内において、沢の箇所にある伐倒木を作業道まで引き上げるため、作業道を歩行中に誤って5m下の沢へ転落した。	60201	1	1～9
2004	7	15 ～ 16	橋工事中の橋面にて、電話線用の塩化ビニールパイプを橋面上に敷設するため材料置場から作業場所へパイプを運ぶ作業をしていたところ、落雷に当たった。	30301	13	1～9
2004	9	8 ～ 9	台風の接近に伴う強風下で、差し替え式になっている看板の取り付けを行っていたところ、強風にあおられ転倒した。	170209	2	10～ 29
2004	10	17 ～ 18	台風の対応のため、自動車で河川の水門等の点検を行ったところ、車ごと川に流された。	30199	5	50～ 99
		13	山林の下刈作業を行っていたところ、ハチに刺され、救急車で病院に運			50～

2004	9	～ 14	ばれたが死亡した。	60209	90	99
2004	7	14 ～ 15	道路下法面（のりめん）の崩壊復旧工事現場において、被災者は、午前8時から道路脇に設置した植生基材製造・吹付プラントに原材料を供給する作業を行っていたところ、体調不良を訴え、駐車場に停めていた自社トラック内で休息していたが、その後死亡した。	30199	90	1～9
2004	7	16 ～ 17	朝から、コンクリート打設作業に従事していたところ、午後になって熱中症で倒れた。	30201	90	30～ 49
2004	6	9 ～ 10	竹の伐採作業現場で、切り落とされた竹を竹林内で整理作業中、ハチに刺された。	30301	90	10～ 29
2004	6	11 ～ 12	バスの誘導を行う業務中に、熱中症を発症した。	170201	90	100 ～ 299
2004	10	23 ～ 24	作業船2隻を避難港の護岸に係留していたが、台風が接近し、係留していたロープの数本が切れたため、当該作業船上において補強を行ったところ、波浪にあおられ、海中に転落、船体間に挟まれた。	30111	7	10～ 29
2004	12	5 ～ 6	厩舎脇の運動場にて、乗り運動（馬の背に乗り歩かせる）を行っていた当舎管理馬の後ろに付いて、別の馬の引き運動（手綱を引張って馬を歩かせる）を行っていたところ、突然、前を歩いていた乗り運動中の馬の後ろ足で蹴られた。	170209	6	1～9
2004	7	11 ～ 12	下刈作業中、杉の木の下草むらに営巣していたハチに刺された。	60209	90	30～ 49
2004	8	15 ～	ゴルフ場でグリーンの芝刈りと機械整備を行っている時に、ハチに刺され、後に、アナフィラキシーショック（蜂アレルギー）となった。	170209	90	10～ 29

		16				
2004	7	13 ～ 14	道路の排水溝設置工事において、U字溝敷設用モルタルの練合せ、運搬の作業中、熱中症になった。	30106	90	10～ 29
2004	10	11 ～ 12	一人で、排水槽の浚渫作業のため中に入りストレーナー（ろ過器）の泥を取り除く作業をしていたところ、槽内にある仕切り壁（高さ2m）を乗り越えてきた泥に埋まった。	20301	10	100 ～ 299
2003	11	0 ～ 1	牛舎柵内（雄牛2頭、乳牛50頭）に入って牛を搾乳場へ追い込んでいたときに、雄牛に激突されたのち牛舎コンクリート壁と雄牛にはさまれた。	70101	6	10～ 29
2003	11	10 ～ 11	公園トイレの雪囲い作業の下見作業中に、ハチに刺された。	30209	90	50～ 99
2003	10	15 ～ 16	アンローダーで荷役作業中に、強風のため作業中止の指示があったので運転室で待機していたところ、同じレール上にあった無人のアンローダーが突風により約300m暴走してきてアンローダーと衝突したため、アンローダーが倒壊し運転室にいた者が海中に投げ出された。	50202	6	1000 ～ 9999
2003	10	15 ～ 16	屋外に設置されたホイスト式天井クレーン（運転室付き）が突風により走行レール上を約240m逸走し、走行レールの端から9m下の地面に落下し、その際に運転室が押しつぶされて中の運転士が死亡した。	11209	1	100 ～ 299
2003	8	10 ～ 11	民有林の造林作業において、5名でブラシカッターを使用して下草刈り作業をしていたところ、1名が倒れているのに同僚が気づき救急車で搬送したが、ハチ刺されのため死亡した。	60209	90	1～9
2003	8	2 ～ 3	台風で工事現場内のドラグ・ショベルが浸水しないように移動するため、2名で現場に向ったまま2名とも行方不明になり1名の遺体は川で発見され、1名は行方不明のまま死亡除籍とされた。	30106	1	10～ 29
		2	台風で工事現場内のドラグ・ショベルが浸水しないように移動するた			10～

2003	8	3	め、2名で現場に向ったまま2名とも行方不明になり1名の遺体は川で発見され、1名は行方不明のまま死亡除籍とされた。	30106	1	29
2003	8	0 ～ 1	高速道路料金所のところの路肩に車両積載型移動式クレーン（最大積載荷重4t）を停車させ、その荷台上でシート等の整理作業を行っていたときに、台風過後の突風に煽られて荷台上から約25m下の湾に墜落し溺死した。	40301	10	10～ 29
2003	8	7 ～ 8	資材置場で、工事現場へ搬送する資材をトラックに積み込むため、フネ（プラスチックのケース）を持ち上げたところ、そばにあった廃材を入れる箱を支える単管パイプ（長さ2.85m、直径4.5cm）にフネが当たり、単管パイプの中からアシナガバチが飛び出してきて刺された。	30199	90	1～9
2003	8	6 ～ 7	ミーティングのため会社1階の打合室に集合し、そこで社長より各作業員の現場先の割り振り・指示等を聞いていたときに、スズメバチに右耳あたりを刺され倒れた。	30199	90	10～ 29
2003	8	8 ～ 9	県有林の下草刈り作業の準備のため、刈り払い機のアイドリングを行っていたときクロスズメバチに頸部を刺された。	60209	90	1～9
2003	7	14 ～ 15	同僚と2人で下草刈り作業を行っていたときに、ハチに顔を刺されて間もなく意識を失った。	60209	90	10～ 29
2003	6	7 ～ 8	漁港沖防波堤より約15mの水深7～8m付近において、マスク式潜水によりトコブシ漁を行っていたところ、潜水者の動きがなくなって船上からの合図にも応じなくなったので、船上に引き揚げたところマスク内に海水が入り溺死状態となっていた。	70201	10	1～9
2003	4	16 ～ 17	自然動物公園内のライオンセクションにおいて、ライオンを客に見せるためライオンがその場を動かないよう監視作業を行っていたときに、同僚が監視していた別の場所のライオンが興奮して動き出したのでその方向へ移動したところ、道路上に約15頭のライオンが集まっており、それを追い払ったところ同僚がうつ伏せに倒れていた。	140309	90	50～ 99



2003	2	6 ～ 7	立体駐車場の警備業務で、早朝の巡回（午前6時30分頃）中に、屋上の凍結した床面で滑って転倒した。	170201	2	100 ～ 299
2002	1	8 ～ 9	工場内において、フィリピン労働者に対して「鉄骨の塗装の仕上がりが悪い」と注意して殴ったところ、腹を立てて近く置いてあった作業用のナイフ（長さ約23 c m）で胸を刺された。	11209	8	10～ 29
2002	10	17 ～ 18	ビル内の定期巡回に出ていた者が事業所に戻らないので同僚が探しに行ったところ、9階の改装中のフロアで窓枠の下敷きになっていた。	150101	4	300 ～ 499
2002	3	7 ～ 8	調教のために騎乗して馬場に向かう途中、突然馬が暴れ出してを逆走し、静止しきれずに約60m暴走して落馬した。	70101	1	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	雑木林でパルプやチップの原料となる伐採したナラなどの雑木（長さ2m）を運び出す作業中に、蜂（種類は不明）に刺された。なお、同人は以前にも何度が刺されていた。	60209	90	1～9
2002	8	11 ～ 12	チェーンソーで伐採する木の周りの下刈りをしていたところ、ムモンホソアシナガバチの巣があって右耳の後ろを刺され、少し休憩していたが容体が悪くなったので病院に搬送したが死亡した。	60201	90	1～9
2002	8	7 ～ 8	サラブレッド3歳の騎乗調教中、馬がつまづいたため前方へ投げ出されて背中から落馬した。	70101	1	10～ 29
2002	3	7 ～ 8	競馬場内において馬運車より馬を降ろす際に、馬が暴れたため馬とともに転落し馬の下敷きとなった。	70101	1	10～ 29
2002	2	7 ～ 8	トレセン内を馬に乗り運動中、他の馬が放馬したのに驚いて暴れたため頭部より落馬した。	70101	1	10～ 29

2002	1	8 ～ 9	牛舎内で牛に激突された。	120109	6	100 ～ 299
2002	1	6 ～ 7	徒歩で新聞配達を行っていたところ、凍結した路面で転倒した。	80205	2	50～ 99
2002	1	13 ～ 14	会社の別荘の屋根の雪下ろし作業中、1.5mほど積もっていた雪が滑落したため巻き込まれて転落し、軒先より約4mあった雪の中に埋没した。	170209	1	1～9
2001	11	0 ～ 1	2才の牡馬に乗馬して厩舎の回りを運動中に、近くにいた他の馬が暴れたのに驚いて馬が暴れ、落馬した。	70101	1	1～9
2001	3	14 ～ 15	傾斜角50度の傾斜地の森林で同僚とともにチェーンソーでヒノキの間伐作業を行っていたが、同僚がチェーンソーの異音(空回り音)に気づき様子を見に行ったところ、作業をしていたと思われる場所から12mほど下方の沢で頭頂部に裂傷を負って倒れているのを発見した。	60209	1	10～ 29
2000	9	15 ～ 16	担当する馬を運動させているときに急に馬が暴れ出し、後足で腹部を蹴られた。	70101	6	1～9
2000	9	17 ～ 18	山中での地籍調査を終えて林の中を下山している途中でオオスズメバチに襲われた。右側頭部など全身9箇所を刺された。	170209	90	100 ～ 299
2000	7	18 ～ 19	朝8：00より4名で引越し作業を行っていて18：00頃に、ほろ付トラックの荷台でガタッと音がして倒れていたのを、救急車で病院へ移送したが、熱中症のため死亡した。	40301	90	10～ 29
2000	3	11 ～	砂防ダム関連工事現場において、林道の除雪及び現場の資材等の片付け作業を2名で行っていて、現場詰所で休憩しているときに大規模な雪崩が	30108	5	30～ 49

		12	発生(推定：60万?)し、2名が生き埋めとなり3日後に遺体で発見された。			
2000	3	11 ～ 12	砂防ダム関連工事現場において、林道の除雪及び現場の資材等の片付け作業を2名で行っていて、現場詰所で休憩しているときに大規模な雪崩が発生(推定：60万?)し、2名が生き埋めとなり3日後に遺体で発見された。	30108	5	30～ 49
2000	8	11 ～ 12	山林の貯水場で単独で草刈りを行っていた者から携帯電話で事務所に「蜂に刺された。ちょっとおかしいので病院に行きたい」という連絡があったので、その行方を捜したところ、貯水場に向かう途中の林道で移動用の重機の上で意識不明となっていた。	140101	90	30～ 49
2000	2	10 ～ 11	厩務員2名で競走馬を運動のため馬房から出して歩行させているときに、突然前足2本を上げ暴れ出したので片方の厩務員が引き綱を放したため、もう一人の厩務員が綱を持ったまま馬の後部に回る形となり後左足で腹部を蹴られた。	70101	6	1～9
2000	2	7 ～ 8	会社の車で工事現場へ向かって走行中、対向の4tトラックが雪でスリップして進路を塞いだため衝突した。	30201	17	0
2000	2	5 ～ 6	自転車で新聞を配達中、道路側の用水路(幅110cm、深さ90cm、水深15cm)に自転車ごと転落し水死した。	80205	10	30～ 49
2000	1	2 ～ 3	鋼材を大型トレーラーに積んで国道を走行中、下り坂カーブでシャーベット状の雪でスリップして縁石にはじかれ、対向の4tトラックに接触後、ガードレールを突き破り、1. 5～2. 5m斜面を転落・横転した。	40301	17	50～ 99
2000	2	11 ～ 12	虎(3歳、体長163cm)をオリから事務所内に出したときに、頸部を噛まれた。	80409	90	1～9
2000	7	16 ～ 17	工場内で小型トラックの荷台に掛ける幌を作製するための型取り作業中に、何らかの虫に左前腕部を刺され、帰宅して就寝中に39度6分位の熱が出たので病院に行ったが死亡した。	10309	90	10～ 29

2000	3	7 ～ 8	厩舎内の馬房において馬の手入れ作業中、馬が興奮して突然暴れ出し腹部を蹴られた。	70101	6	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	降雪に伴う水力発電所の保守点検のため、5名で発電所上部の水槽まで水圧鉄管沿いに登坂していたときに、表層雪崩が発生して5名全員が巻き込まれ、労働者3名が死亡し、2名が負傷した。	11601	5	50～ 99
2000	12	10 ～ 11	降雪に伴う水力発電所の保守点検のため、5名で発電所上部の水槽まで水圧鉄管沿いに登坂していたときに、表層雪崩が発生して5名全員が巻き込まれ、労働者3名が死亡し、2名が負傷した。	30199	5	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	降雪に伴う水力発電所の保守点検のため、5名で発電所上部の水槽まで水圧鉄管沿いに登坂していたときに、表層雪崩が発生して5名全員が巻き込まれ、労働者3名が死亡し、2名が負傷した。	30199	5	10～ 29
1999	9	11 ～ 12	工場から事務所に入るためドアを開けたと同時に台風の突風にあおられ、転倒し、地面で右側頭部を強打した。	30201	2	30～ 49
1999	10	3 ～ 4	攻馬調教に行く途中、馬場の入り口付近で馬が突然暴走して植え込みの垣根を飛び跳ねたため落馬した。	140309	1	1～9
1999	10	15 ～ 16	空輸された食用馬の検疫のため、空港からトラックで検疫所に運びこまれた馬を所定の畜舎の馬房に収容する作業中に、暴れだした馬に激突され、馬の胸部と通路仕切用の馬栓棒(7. 5mm角・厚さ2mm・アルミ合金製)との間に挟まれた。	70101	6	10～ 29
1999	9	12 ～ 13	朝に荷物の積込みを行うこととなっていたが、現れないので付近を捜したところ、国道脇に会社の10tトラックを停車させ、道路路肩から約4m下に墜落して死亡しているのを発見した。	40301	1	30～ 49
1999	9	14 ～	法面に樹脂製の土留めネットを張る作業を法面中段の小スペースで手伝っていたときに、法面上部に移動しようとして、法面上部から約10m	30106	1	10～ 29

		15	下の地上に墜落した。			
1999	7	10 ～ 11	畜産場内の1000トン貯水タンク裏側の樹木枝打ち作業中に右目上のまぶたを蜂に刺された。	70101	90	100 ～ 299
1999	6	13 ～ 14	バラストの整理作業を外気温28℃のところで座って行っていたので声をかけたところ、腰が痛いと言うので貨物自動車の窓を開けて、後部座席に寝かせて休養を取らせていたが容体が急変し、救急車で病院に搬送したが死亡した。	30104	90	30～ 49
1999	7	17 ～ 18	洗浄したばかりのビールタンク内の補修作業を実施する前に、残留している臭いと酸欠が気になったので、純酸素をタンク内に約10分放出させ、その後タンク内に入り純酸素を入れながらアルゴン溶接を行っていたところ、軍手についた火が全身に燃え広がり、全身の80%が1, 2度の火傷を負った。	11209	11	30～ 49
1999	6	14 ～ 15	マンションの周りの植木等の刈り込みを行っていたところ、蜂に刺されて気分が悪くなり病院に運ばれたが、死亡した。	30199	90	50～ 99
1999	1	15 ～ 16	施設の庭の除雪作業を行っていたときに、屋根から落ちてきた雪の下敷きになった。	140309	5	1～9
1999	3	15 ～ 16	作業員4人による住宅の屋根上の雪下ろし作業中に、敷地内の物置裏と母屋との間の地上で氷の一部の下敷きとなった。	30199	4	10～ 29
1999	2	14 ～ 15	屋内トレーニングセンターにおいて軽種馬の調教のため騎乗したところ、突然、軽種馬が暴走したため、落馬し、腹部を踏まれた。	70101	1	10～ 29

2021年、2020年の事例は新型コロナ罹患を含む。2011年の事例は東日本大震災による労働災害を含まない。

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

[小起因物別の死亡災害事例（1999-2021年）](#)に戻る。

(参考) [労働災害の分類の概要](#)